

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 大牟田市立銀水小学校

種別  幼稚園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒837-0916

福岡県大牟田市田隈239番地

E-mail : ginsui-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/ginsui-es/

児童生徒数：男子 250名 女子 214名 合計 464名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 1年生「ぐんぐんのびろ」

1年生は、継続的な栽培活動を通して植物の変化や生長の様子に関心をもたせている。春から夏にかけて6種類の植物を育てることで、葉・花・育ち方の様子、種のでき方や個数等の多くの気づきがうまれた。また、植物に親しみをもち世話をする楽しさや喜びを味わうことができた。

#### 2年生「まちのすてきをつたえよう」

2年生は、「まちのすてきをつたえよう」に取り組んでいる。校区の店や公共施設に行き、どのような人に利用されているのか、どんな工夫があるのかなどを見たり聞いたりした。また、町の優しさ（バリアフリーや安全、安心のための対策）にも気づくことができた。それらをまとめてカードに表現して掲示し、まちの魅力を伝えようとしている。



#### 3年生「銀水グリーンプロジェクト」

3年生は、「銀水グリーンプロジェクト」と名付けたバケツ稲栽培に取り組み、しろかき、田植え、稲刈り、もみすりなどの活動を通して、稲が米になるまでの成長の様子を観察した。

秋には、おにぎりパーティーをして収穫の喜びを味わい、観察記録を振り返ることで、稲の成長には水の管理と栄養のある土が大切であることに気づいた。そこで、自分達も栄養のある土をつくってみたいという関心をもち、腐

葉土づくりに取り組んだ。校内の落ち葉を集めて土と混ぜ、腐葉土のできる仕組みを理解した。そして、腐葉土を花壇に混ぜて植物を植え、花が咲く日を楽しみにしている。



#### 4年生「めざせエコロジー博士」

4年生は、ごみ処理などの環境問題における大牟田市の取り組みについて調べ、分かったことをもとに、ごみを減らすための方法や資源を無駄にしない方法を考え、エコ活動への意欲を持つための学習を行っている。エコサクセンターやRDFセンター、リサイクルプラザの見学や社会科の学習との関連を通して、ごみを減らすことの大切さを知り、リサイクル活動の必要性や資源ごみの処理の仕方を学んでいる。また給食の調理のときに出る生ゴミを減らそうと、生ごみを分解して土にもどす「段ボールコンポスト」に取り組んだ。ゴミそのものを減らすリデュースや原料にもどして使うリサイクル、使える物は何度も使うリユースに目を向

けて、環境作文を書いたり、「すてないで ゴミばこじゃない キミの町だよ」などの標語を考え出したり、それを環境ポスターに生かしたりして、各自が自分の考えを発信している。

### **5年生「ともに生きよう」**

5年生は、校区の高齢者福祉施設を訪ね、交流活動をしている。

1学期に初めての訪問をする。ここでの気付きが、次の訪問への意欲と課題意識を生み、2学期の交流活動の充実につながる。高齢者と心を通い合わせ、理解し合うにはどうすればよいか、一人一人が考え、自分のあり方を見直していく。訪問の前には、自分達も車いすに乗って体験したり、高齢者体験グッズをつけて歩いてみたりし、高齢者の気持ちによりそって考えられるようにしている。そして、皆が助け合い、支え合って生きる社会をつくるために何をすべきかを考え、実践する学習になっている。

### **6年生「ふみだそう、夢への第一歩」**

6年生は、将来、自分のなりたい職業について考え、仕事内容や必要な資格、どんな学校に行けばよいかなどについて、図書館の本や資料、インターネットなどを使って調べた。また、家族やGTの話聞くことで、仕事への思いや夢を実現させるための努力などについて知り、今の自分にできることについても考えさせ、取り組んだ。最後には、調べたことをリーフレットにまとめ、友達と交流することで、いろいろな職業について知識を広げることができた。リーフレットは、家庭にも持ち帰り、家族とも交流することができた。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

■ 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他( )